



こうち人づくり広域連合

第4回調査研究事業

# 平成19年度 調査研究事業企画書



東部グループ

テーマ

父親の家事意欲向上事業 ～男よ台所に立て～

西部グループ

テーマ

ジョギングのまちづくり事業 ～メタボ撃退！健康回復！！～

## 平成19年度 調査研究事業の取り組み

月 日	内 容	場 所
3月27日	東部グループ受講職員初めての顔合わせ(第1回会合)	田 野 町
3月31日	西部グループ受講職員初めての顔合わせ(第1回会合)	四万十市
4月11日	東部グループ第2回会合	田 野 町 広域連合
5月11日	西部グループ第2回会合	
} テーマ選定		
5月12日	第1回全体会合 本多講師から政策立案について指導	研 修 室
6月 2日	東部グループ第3回会合	安 芸 市 中土佐町
6月 9日	西部グループ第3回会合	
} テーマ選定と方向性を模索		
6月16日	第2回全体会合 テーマ選定や今後の方針について指導	研 修 室
6月23日	東部グループ第4回会合	田 野 町 四万十市 安 芸 市 田 野 町
6月26日	西部グループ第4回会合	
6月30日	東部グループ第5回会合	
8月 6日	東部グループ第6回会合	
} それぞれ決まったテーマについて取り 組むべきことを考察		
8月18日	第3回全体会合 政策を実現するための考え方を指導	研 修 室
8月27日	西部グループ第5回会合	四万十市 四万十市 田 野 町
9月13日	西部グループ第6回会合	
9月13日	東部グループ第7回会合	
} 実現性のある企画書・発表資料作成		
9月24日	第4回全体会合 企画書、発表資料について指導	研 修 室
9月29日	東部グループ第8回会合 父親料理対決プレ大会開催	田 野 町
10月16日	西部グループ第7回会合	四万十市 田 野 町
10月17日	東部グループ第9回会合	
} 企画書・発表資料の調整		
10月21日	第5回全体会合 最終指導により政策立案資料作成	研 修 室
10月31日	トップセミナーでの発表(県民文化ホール)	

# 調査研究事業の様子



平成19年度 こうち人づくり 調査研究事業

## 父親の家事意欲向上事業

～ 男よ台所に立て～



父親料理対決プレ大会の様子（田野町：9月29日）

グループ名 東部グループ

所属 名前

田野町 総務課 今井 章博

室戸市 福祉事務所 山崎 桂

安芸市 学校教育課 濱川 真千子

田野町 保健福祉課 井上 孝二

田野町 まちづくり推進課 安岡 裕史

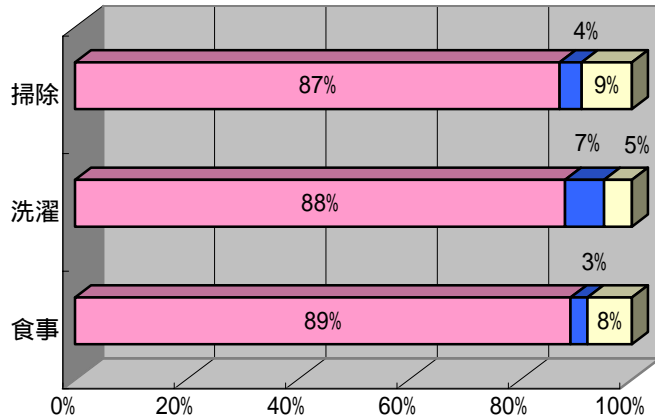
事業の必要性（事業選択の背景）

男女共同参画の推進により女性の社会進出が進み、結婚した後も仕事を続ける人や、景気の低迷により経済的な理由で共働きしている家庭も多い。そんな時代においても、家庭内の男女の役割分担が適切になされている例は少なく、依然として家事・育児にかかる女性の負担は大きい。

内閣府が発表した男女共同参画社会に関する世論調査で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という昔からの考え方に反対する人が、調査開始以降初めて50%を超えた。しかしながら、同調査において実際に掃除・食事の支度・片付けという「家庭における家事分担はどうなっているのか」という質問では、3つの家事全てにおいて約8割の家庭で妻が行っているという回答であった。

実際に、我々も子育て世代の母親を対象に、家庭内での家事の役割分担に関するアンケート調査を実施した結果、掃除・洗濯・食事の家事を妻が行っているという家庭が約9割を占めていた。

また、子どもは親を見て育つという言葉があるように、そういう家庭で育ってきた人たちは、家事は女性（母親）がするものであるという意識が根強く残っている。



妻  
夫  
その他

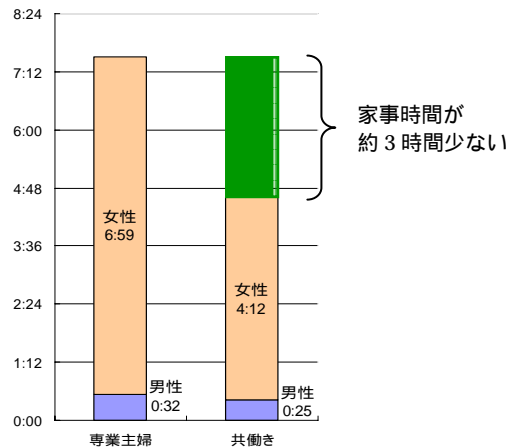
対象者：安芸市・室戸市・田野町の  
子育て世代の母親  
実施日：平成19年8～9月  
回答数：424人中307人が回答  
(回収率：72.4%)

図：家事への参加割合

そうした背景を受け、家庭における男性の家事時間を増やすことにより、女性の家事負担を軽減するとともに、次世代においては、家事・育児は夫婦協同行うものであるという意識付けを行いたい。

また、現在の男女共同参画社会推進の裏に潜む問題として、家族が家庭で過ごす時間が減ったことによるコシヨク（個食・孤食・固食）化や家族だんらん時間の減少など様々な問題が発生している。

これまでの男女協同参画推進の事業では、講演会や男性を対象とした料理教室などが行われてきた。それにより、男女共同参画についての意識付けという点では一定の成果をあげているが、先に述べた調査結果等からわかるように、**家庭においては男性の行動が伴っていないのが現状である。**



図：世帯別の家事時間比較

料理教室・講演会

意識改革

~~行動変容~~

そこで我々は、自然な形で家事を体験させることにより意識改革を行う事業を提案する。

意識改革

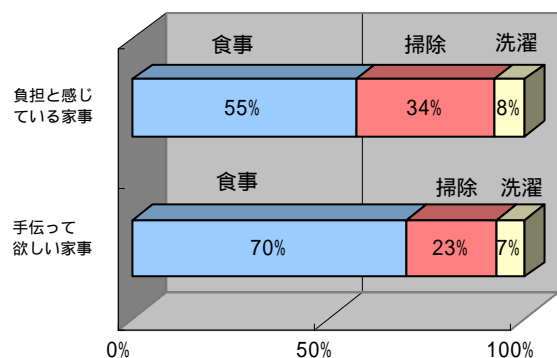
行動変容

**果たすべき責務**：父親の家事意欲向上

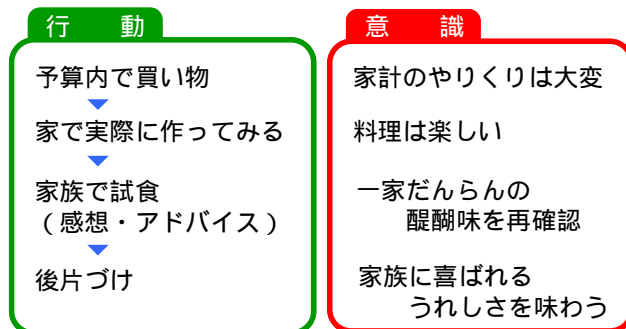
## 事業の内容

子育て世代を対象としたアンケートにおいて、日常生活で一番負担が大きく、かつ手伝ってほしいと感じている家事は「**食事**」であった。また、「**食事**」は、家事の中でも比較的男性が興味を持ちやすいテーマであり、取り組みやすいと考えた。

「**食事**」に関する事業といえば、「料理教室」が一般的ではあるが、過去の実績から単なる料理体験で終わることが多く、我々の果たすべき責務においては効果が低い。そこで、我々は、「**父親料理対決**」を提案する。参加者は対決に勝利するために練習をするので、台所に立つ時間が増え、自然な形で父親が家事参加をすることになる。

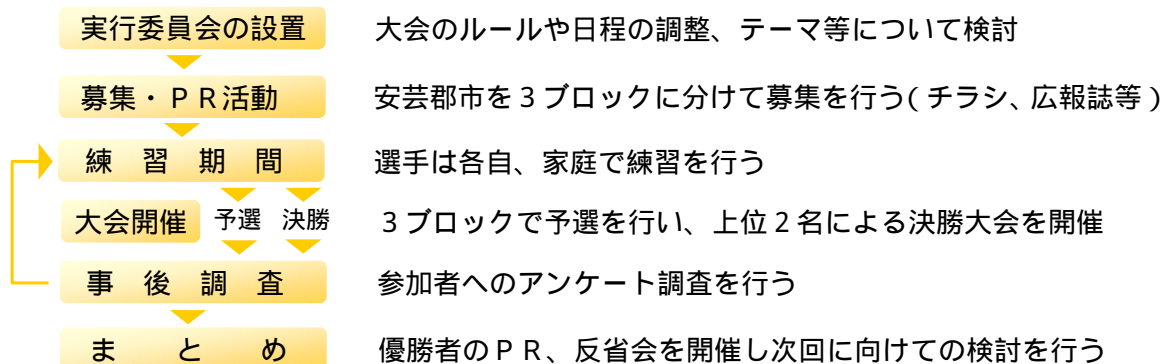


図：家事に対する意識調査



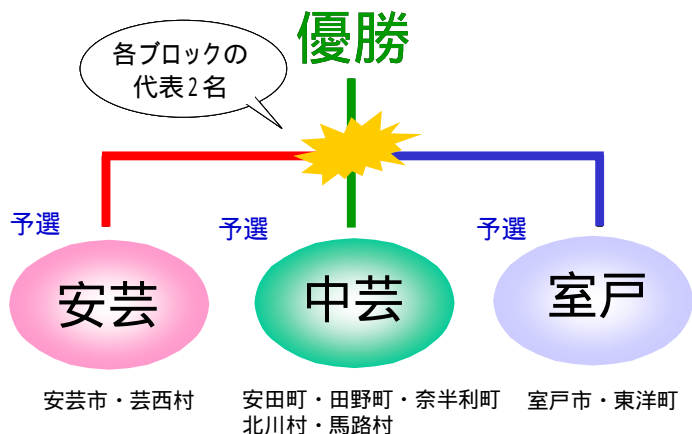
**行動** が変われば **意識** も変わる！

## 事業の手順



## 事業概要

対象者：子育て世代の父親  
 参加費：3,000円  
 募集人数：各ブロック7人  
 審査員：各ブロック10人  
 スタッフ：各市町村事務局



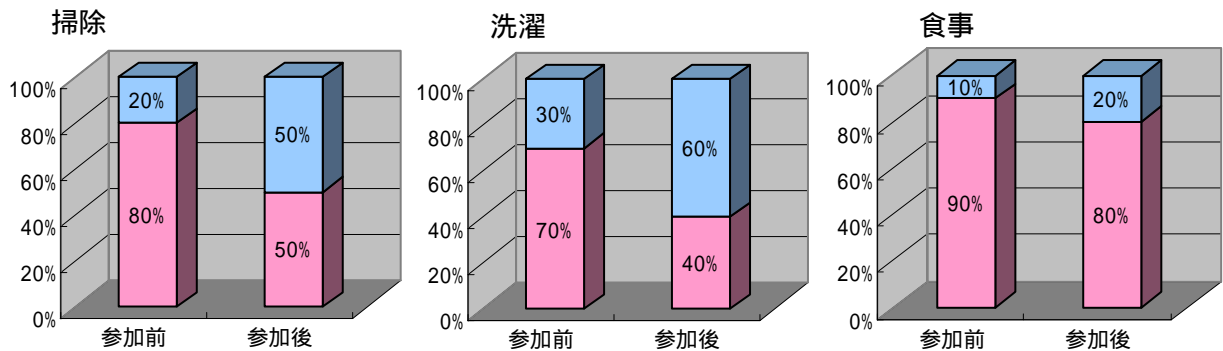
その他、詳細は実行委員会にて決定

事業の実行性

効果の明示

男性の家事時間増加	練習期間も含め、台所に立つことで家事時間が増加する。
男性の家事に対する意識改革	実際に家事を行うことにより家事負担を理解する。
次世代への男女共同参画教育	子どもたちは、両親が協力して家事を行う姿を見て育つため、家事は男女が平等に行うものであるという意識付けができる。
家族のだんらん時間増加	日常生活において共同で家事をすることで、共通の話題ができる。
食生活の改善	コシヨク（個食、孤食、固食）化の緩和。

事業の有効性を検証するために、実際に調査研究事業メンバーと一般参加者数名による料理対決を実施した。その結果、**食事のみならず掃除・洗濯等の家事においても参加率が向上した。**



図：プレ大会参加による家事分担の変化（Aさんの事例） ■ 妻 ■ 夫

予算金額

歳入		
参加料	3,000円×7名×3会場	63,000円
補助金	11,000円×9市町村	99,000円
合計		162,000円

歳出	
需用費	112,000円
材料費(予選)	2,000円×7名×3会場
(決勝)	2,000円×6名
ポスター、チラシ等印刷費	
報償費	決勝戦審査員(大会批評) 30,000円
旅費	決勝戦審査員旅費 20,000円
合計	162,000円

既存事業との比較

	男の料理教室	父親料理対決
年齢層	団塊の世代	子育て世代
参加者	15人	21人(7人×3ブロック)
参加理由	趣味	家族からの申し込み
事業目的	生涯学習	男性の家事協力
得るもの	教わった料理レシピ	料理の楽しさ、大変さを知る
事業効果	調理技術の習得	父親の家事時間の増加
波及効果	参加者のみ	応募者100人(見込み)とその家族・観覧者

